

チリ ブルーベリー市場で競うための構造改革

EastFruit 2025年4月18日

ペルーが台頭するまでの数十年間、世界最大のブルーベリー輸出国であったチリは、今でも業界の重鎮である。数年にわたる輸出の停滞または減少に直面した後、チリのブルーベリーセクターは適応と安定の兆しを見せている。チリは2023/24年度シーズンに、当初の予測を上回る8万6千トン以上の生鮮ブルーベリーを輸出し、前年までの減少傾向を逆転させた。これは前シーズン(2022/23年度)に比べて約7%の増加だが、それでも数年前のチリのピーク時の輸出量を約18%下回っている。チリ・ブルーベリー委員会は、輸出業者が世界的な供給の逼迫状況を利用して予想以上に多くの果実を出荷し、「(場合によっては)チリの供給が世界市場にとって重要であることを浮き彫りにした」と指摘した。

チリのシーズン序盤の生育条件は良好で、涼しい天候により成熟がわずかに遅れたものの、出荷シーズン前半は収穫ペースが安定し果実の品質が優れていた。しかし、シーズンが進むにつれて、大幅に延長されたペルーからの遅い出荷と重複し、市場に溢れたブルーベリーは「前のシーズンを上回り、結果的に価格に影響を与えた」。言い換えれば、かつてはチリにとって比較的競争のない輸出期間であった時期に、今ではペルー(及びメキシコ、モロッコ等他の国々)が世界のバイヤーに向けて供給しているため、チリの生産者の出荷時期は以前よりも混雑している。

これに対応するために、チリは構造改革とポジション調整の時期を迎えている。業界は、果実の硬さ、サイズ、収穫後の日持ちを向上させるために、新しい品種と改善された果樹園管理への迅速な移行の必要性を認識している。チリの輸出は何年もの間、日持ちのしない古い品種に苦しんでいた。これは、市場への長い海上輸送時間と相まって、品質問題とバイヤーからの苦情につながった。現在は品種の更新が加速化している。「チリには、技術や品種に関して最善の決定を下すための長年の経験とデータがあり、品種の更新は既に新たな品種構成を示し始めている。」競争力の低い果樹園の多くは、伐根されたり、冷凍用ベリーの生産に移行したりしている。

この品種の淘汰によって生鮮輸出のための純栽培面積(結果面積)は数年間縮小したが、新たに出荷が始まる園地は収量が多く、生鮮市場の基準への適合を目標としている。チリの業界は、優位性を取り戻すために、物流の改善と新技術にも投資している。例えば、長時間の輸送の後でも果実が最高の状態で到着するように、コールドチェーン管理の改善とCA輸送が追求されている。

チリの輸出業者は、多くの国で引き続き強力な市場プレゼンスの恩恵を受けている。チリ産ブルーベリーの主な輸出先は大陸ヨーロッパ(2025年序盤の輸出の41%)で、これに米国(35%)が続き、それには及ばないもののアジア(韓国が約8%)と英国(約7%)が一定のシェアを占めている。この多様な市場の広がり、チリが需要の変動を乗り切るのに有用である。特に、チリはヨーロッパの冬の期間の主要な供給国であり、ヨーロッパのバイヤー達は、モロッコ産やスペイン産と並んで、オフシーズンの果実をチリに頼るようになった。

ブルーベリー部門の世界市場におけるチリの主な優位性は多様な輸出市場にあり、これは業界の協調的な取り組みとチリ果実輸出業者協会(ASOEX)による積極的な販促活動の成果である。同協会は、ベトナム、インドネシア等の東南アジア市場に参入するための新しい戦略を含め、チリのブルーベリーを世界的に売り込むのに貢献してきた。

注目に値するトレンドの1つは、チリでの有機ブルーベリーの成長である。生産者達は市場のプレミアム部門に対応しており、有機は最近のチリの輸出の約12%を占めている。

経済的には、チリは2030年までの成長軌道に影響を与える可能性のある収益性への圧力に直面している。近年の人件費及び投入資材コストの上昇と市場価格の相対的な低下が相まって、利益が圧迫されている。労働力の確保が特に懸念事項であり、生産者達は労働者の不足と賃金の上昇が、収穫を難しくし、コストを増加させていると報告している。また、チリの金利の高さが、果樹園の新植や改植への資金調達を困難にし、強く求められている品種の更新のペースを遅らせている。これらのマクロ経済的な要因は、「業界の慎重な考

え方」を助長し、場合によっては対応を遅らせている。とは言え、統合が進行中であり、チリのブルーベリー輸出企業数は、2022/23年度までの5年間で190社から110社に減少し、効率性の向上と専門化が進んでいることを示している。

2025年から2030年までの期間、チリは引き続き世界第2位の輸出国の地位を保つと予想されており、条件が良ければ年間8万トンから10万トン以上のオーダーで出荷するものと見られる。成長は爆発的ではなく、漸進的なものになると見込まれる。チリの戦略的優位性は、その長い経験と取引先との確立された関係である。品質、品種の更新、供給の信頼性に焦点を当てた「ポジション調整」を成功裏に完了することができれば、輸出量の王座はペルーに譲るとしても、チリは依然として「世界のブルーベリー市場の主要メンバー」の地位に留まるだろう。